



十三の九

富士園遊

外務省

国立公文書館	
分類	持株
排架番号	3 B
	14-13
	④4912

4912



(年右三時三十五分再開)

の都わる長 只今かゝる高士固係り人事統制に及する内題トついで仰送

明と伺ひます。高士在業の社長野村さんと前中島飛行機の徳野

部長をいさかしたるに際しては、高士をいさかしたるに際しては、高士をいさかしたるに

の上田部長 高士は高士と改めましては、高士と同族支配力非

陸軍の才高係に及らざりし、既成高士会今社に關して人事統制を中

内 閣

裏面白紙

としこの關係を以て説明願ひたいと申すに依りて願ひたいと申す

申すに依りて願ひたいと申すに依りて願ひたいと申す

小まきにありまして嘸後の申立を以て又及隠し申立をなさんと

いふこと加ひたいと申すに依りて願ひたいと申す

十分の注意を願ひたいと申す。なお事實の所を説明をなさんと

申すに依りて願ひたいと申すに依りて願ひたいと申す

つゝ、あはれ御自の方々より申すに依りて願ひたいと申す

内閣

日本国憲法第115条(1)第1項

裏面白紙

おす。この点も念み願ひをいと思ひます。

○野村氏 差当り理會位階の如何に経過の就任したかという事

を申上げました。私めは如何に意味をいふとか、藤生君が如何に

その後程に説明申上げられたかという事とを説明願ひをいと思ひます。

三年の三月三日と申すは、政府のウチランの如何かお尋ねし

て、これに從來の中島銀行機關係からお尋ねと重役を全部解任

して、債権者である野村銀行から四人と中島銀行から三人の

内 閣

日本銀行関係資料(1917年)

裏面白紙

重役を退任し、借債者の方から、おちのち責任者トキトという指令
 が下りまいし、トキト基の拂を協会の承認を経、5月2日の手続を
 終りまいし、就任しモのシツクイマス。和興業銀行の推薦によつて
 おちのち、只今責任者とし、今社の社長を致し、おちのち第1のジ
 ャンマイ。就任まいし、致事の中、おちのちトキトつきまし、その後、
 いろいろの書類を社員あう開くきりして研究は致しましたし、
 一應のことはなしておちのちつもりいふ、なお詳しいことをいつ

内 閣

日本銀行長官(1914年)

裏面白紙

ソコは前より居りました。御座る所を御説明申上り方を止し、
思ひますので、左様お食みをお願いします。

ニドお食ひいぢえました。中島販肉は就してソコにお食ひ
にありと思ひます。色ソモモウイソコにいますから、おと致しまし

こはまお十分に完全とは思ひませんが、大作の意味を現わし、お
りますから、ニドにお食ひあらう。最初簡単に申上ります。

中島販肉と申しました。お食ひの中へは中島銀行様へお食ひ

内
閣

裏面白紙

昭和十一年四月二十一日

27ページあります。そのほか中島航空金属と千歳鉱山とか中島産業、
 興和紡とこのように会社は、資本の構成の大部分が中島一家が持
 つておるといふことで、中島の主要工場のようにお考えのことも知れませ
 んが、飛行機が中心の工場は、千歳金山といふのはその弟さんの
 門下といふので、中島に属するものではありません。中島産業も金山関係
 のもので、おっしゃる中島航空金属といふのは、示はもとく中島
 飛行機の鋳物工場であつたものを、戦時中振興するにつぎました。

内 閣

裏面白紙

別会社に達することを願ひません。豊和紡と申しませうのは、衣古屋近
 傍における豊和紡の工場をニシ中島が使用したというのいつかいま
 して、中島既商の著作というのは、二、三書いがあるように、中島既商
 機の中にあるというように所承知種々の結構をと思ひます。
 ニシ中島既商機の経過につきましても、二、三書いがある、二、三、
 四、という順序を整理して参りまして、その方が、御承知のようには海軍
 機関に耐えられず中島既商の海軍をやめまして御承知に帰つて、

内 閣

裏面白紙

小工の養蚕小屋を借りて花行機の研究を始め。そのうち追々大き
 くなりまわし、太田の博物館を牛込へ移し、その機械工場を作った。と
 小の時世と合ひまわしをせいかたきくまわし、約三千万円の会社を創設し
 二とみまわしをせいかたきくまわし、東洋の製作所を拓き、太田の方に工場を拓き
 たりするようになつた。二とみまわしの中身の第一
 期はついでにまわし。

その後、印刷のようになつた。戦争の激化に伴ひ、印刷機は、戦時
 下の必要に依り、印刷機は、戦時下の必要に依り、印刷機は、戦時

内閣

裏面白紙

戦後、航空機製造事業の発展を促すことになりま
 した。これは、アメリカの飛行機を輸入しようと
 いう画案が力加に力加に力加に力加に力加に力加
 にくちまを促した時のことでした。最終には東
 洋航空の時に力加に力加に力加に力加に力加に力加
 を膨脹を促したのと同じ、これは力加に力加に力加
 に力加に力加に力加に力加に力加に力加に力加に力加
 において、政府保障による借入金も多くなりました
 のです。金に力加に力加に力加に力加に力加に力加
 は工場内の自給自足による多量膨脹を促したの
 があります。この時

内閣

裏面白紙

裏面白紙

はすにてもう中絶の経費というよりも画家経営というにこのついでに
 2. 最後には所蔵者のように、二十一年四月一日に東京工廠というにまつた
 のついでに。とうして終戦によりまして解散さすまいし、えの今更と
 設備費を少く他が返さすまいとこの中絶のたぬいのかいませう。
 たいに、これと書かしてあるのはいりませう、おのりめ見れ
 中絶費と見せしめな
 中絶費を込むのいし、おのり同時の中絶のたぬいませう、おのり同時
 就任致しなりました。五六月おりましたと退散というにござませう

内閣

2. ヤメオしむが、昨年物故ノトオし、――私と同僚心任事せしこと
 リオチ時ハ所ノトオしむんいあります、ニハ金分事ニとも知
 申せんが、申免といふものを御締解下エラにツリ入用なことを思
 ますのし申上申すか、申免を先身、知多平、其代へ、乙未平、
 ニハ社長となり副社長となり、次々上ツて行つてわけあります、
 ニハ人ハ銀行機製造と経営しなつたものツクかいますか、申免
 としては、実質、銀行工場として終始しなつたのを、ニハ万同の會社
 として、

内閣

裏面白紙

着の世官の相神ちの懸望は、よつて、高きを得ず、軍需工廠に
 ちのちということを申しわたりおしめたが、別中多一家を抵護すの
 けいもありませんが、大伴を頭にたのし見こ敷きますと中島
 飛行機の研究の順序がお分りかと思ひます。軍工廠時分は相
 陸海軍の軍人が入山つて来る生産も挙げたが、抗張に次ぐと
 抗張を以てして、只今私整理を致ししておりますと、指板に著しむく
 の振かりをというをいひます。致率の増まし、山の如く去つ

内閣

裏面白紙

この行つてというのが、私が就任後整理を致ししておりまして、感戴を感ぜ
らるるに存じます。中島一家と中島銀行との関係と大伴……株主その他
に付いては、株主を以て……

の株主は、……と小の株主関係と……と申上げます。株主は……

人の中島一族は、持つておりませぬ。……に書いてある通り、中島姓……

ない人達の持つていふ株は、大部分が名義株として持つておられるもの……

あります。……十三年の十月……千両増資した時も、やはり同じような

内
閣

裏面白紙

割合に中絶一族が大部分の株を持つておつて、ようやわけのついでに、
あと、中絶一族が十歳山とソウのようなものは、私あまり関係
しなかつて、詳しくは分りませんが、大伴三三に書いてあるような
状況があります。

と、それから、人権関係のことは、大伴三三に個人社会的色彩
が強いから、終始中絶が全社を握つておりましたし、
の、人権関係については別に何もきまつて規則というものはありま

内閣

裏面白紙

人。ほとんどの實権は中島社長が持つておられます。あとの重役は
大抵の技術出身者で、いさく任事の関係上重役にしておられる
おなじものがあります。

野村氏 定款にも社長、副社長が記されています、専務、常務
というものがありません。あとは平取係役のあります。つまり
あとは使用人という感じで、社長、副社長だけが中島一族で、ほか
任事をやらないというのを親と理わけておられます。

内閣

裏面白紙

○野村氏 二千万円から五千万円に改まりました。時は社債を二千万円

ほど発行したのいす。将来あつた改行保障による借入とこのこと

くあつた、社債の利用ということば増資しよという陸海軍の強硬

と訴もあつたといふ。ところが中島はこれには金めちい。と小の銀と

言つて借りこむるといふこと、三千万円金種拂込は全部銀

よりの借入をいふ。

○陽村委員 加あはあつたのいすか。

内閣

裏面白紙

○ 藤生氏 聖徳計算ししやりまする利益はなりのいす。飛

行株今社は陸海軍の経理監督官が来る聖徳計算をしし利

益ありはと切り直結を下ゆるといふ契約にちりすあう、

ヤフと今の陸海軍あう約束さすも七分なら七分の配当かし得

る程はりのものいす。切あう一番上の飛行株今社はとう儲かると

あつものぢやないかと思つます。ほつかりしるの事あう。

○ 野村氏 戦争中薄中か、利益も何も分らんという状態つちつ

内閣

裏面白紙

たらしめておね。

○ 藤田氏 協力工場は儲かるとも知れませんが、銀行様会社

自作は常備計算制及び布の少くおりましたか、……。

○ 野村氏 工場が拡張を志すか、それによりますか、……。

益も分るといふことも現存の工場に思っています。

○ 脇村氏 今社の株主になつておられるのは、……。

……。

内 閣

裏面白紙

○野村氏 橋上から知平、喜代、内長、乙未平、忠平の五人
です。

○脇村氏 此の方々は全部役員と云つておろすのいすか。
○鎌倉氏 役員と云つておりました。實際の任るは喜代、乙
未平のやつらですか。

○野村氏 内長とソウのは、金山園係をさすやつらおりました。飛
行機の方は、知平の社長の時は、喜代が副社長、乙未平の工場

内 閣

裏面白紙

長、喜代一が行くと、末平のあと社長になる。何れ就任するまい
乙未年がやつておつた。

○陽村歩貞 中軍常工廠の時、はる守番い。

○藤生八 何も仕事としない、中急の社長か。

○陽村歩貞 知久平は人、政界の方に引いて行く。

○藤生八 肥前守年頃か。

○陽村歩貞 乙未の後は。

内 閣

日本歴史資料センター蔵書

裏面白紙

○藤生氏 今小あう後は金部兼代一人にあらう。

○藤村兼代 兼代様

○藤生氏 知久平は元とど念社にも見えなかつた。ほとん

ど兼代一人が采配と推つておしとちやなつかと思つてます。しあし

との向連給あつてやつておしとちやなつか。……

○藤村兼代 ひとし様は知久平さんか圧倒的に持つておしとちやなつか。

○藤生氏 とうとう。

内 閣

裏面白紙

○山田新助 平取のすか。

○藤生代 何いもすか。太い様毛として糸を叩ける。

○杉野良 関係会社は銀行機令社の協力令社と見こくすか。

○野村氏 同い系列に入るのは昭和紡とソウの工場を貸しておしま

したし、中島貯蓄会、今御穂産業にやつておりますか、シロガ

いろくの方をやつておりますし、一り大伴興紡、千歳屋山、

中島産業、三つは厚みか足並みかやつておつた令社です。

内閣

日本銀行関係部(1941年)

裏面白紙

○杉本 飛行機会社に必要のエンジニア。

○野村氏 いや、別の方。中島産業界を知らぬ。二人は錫の方面、

千歳金山も、三小は飛行機に關係はなりの事。内者という人、その方と専門にやういふおりましたね。

○杉本氏 協力会社、協力工場——何となく同じ会社と見ると、
のちや、ないですか。

○野村氏 中島産業界と云うのは中島飛行機の錫物部分と

内閣

裏面白紙

見たいのりす。

○杉香夏 人等関係も同じ今社のみ

○藤野八 同いす。

○山田安貞 とうすと肺空念所以外の関係今社のみ、その他

の業種とみ方針とかいうとトソには中急飛行機は金銀とツケさ

ハチのつをウツすか。

○藤野八 午族とみ中急を業とみ対してすか

内 閣

日本銀行 昭和 15 年 11 月 15 日

裏面白紙

○山田新良 之、

○藤原氏 ほとんどのおしほしへのつたようのす。

○山田新良 中多子人の所同族の合合はあすのいすか。

○藤原氏 二水とつたやいよういすか、足弟のニとつたやいすか、う時々

券にて相送はしつたよりに開いておりました。

○藤原氏 大田の寄りのいすか、東多子の寄りのいすか。

○藤原氏 大概寄るは東多子のいすか。

内
閣

日本書紀 卷之六(十四行)

30

裏面白紙

○ 野村安多 東郷の事務所にはヒトアツとツレオカ。

○ 野村安多 飛行機が飛ぶのは、初めは明治の命儀と有業館

にありおして、と小の目黒の前田後爵の家へ空想の始まつたよと前
に移りまして、と三の終戦にまつたよと

○ 野村安多 修教と同時に今の興業銀行の方へ移つたのよと

○ 野村安多 前田家と進取軍関係にたら小こあつたよと

○ 野村安多 現在中島さんの上は

内閣

裏面白紙

○ 鎌倉代 全編おのりまはせ

○ 野村代 全編おのりまはせ

シと前のシとをモフと開きたいともあつた。シと開きたいともあつた。シと開きたいともあつた。

の時刻に前のシと開きたいともあつた。シと開きたいともあつた。シと開きたいともあつた。

われくの重役会独自の見解を述べさせていただきます。モロ軍

勢工敵にまつて時の経緯とか、全編おのりまはせ

協力現場と話し合つたのも、さういふ根拠を細念か入用なものを

内 閣

裏面白紙

すかう、さういうことを喜代一尺のあつううに南に二あつてのひき

○山田安直 さうすると千歳とか申色有業は内若さんかやうにあ

らけのひき

○藤重 とういす。

○山田安直 嬰和紡は工場を貸すた、あとは何をやうにするか。

○野村氏 嬰和紡はその向は何も仕るひきかやうかとのひき

○ 一部に繊維関係もやうにありましてか、しつぱりして

内 閣

裏面白紙

つとは中色飛行機は全然関係してないのである。経営的にも事
りも金並別です。

○野村氏 あの時、工場をえ償しにくくにはいいといふのい様を
買つてやつたのです。工場を買つたのは資金調達の関係による
ものであり、工場をえ償はいいといふのはいい。

○山田新氏 豊和紡織は中山あう重役がいつたのですか。

○氏 中色重代一が取締役今昔になつたのです。とん

の
人
の
人
の
人

内
閣

裏面白紙

○ 先生、私儼然にはお説教をいただきます。

○ 福田先生、しかし銀行機令社の任るには携わらなぬつもりです。

○ 金に携わりません。

○ 印打は、当時の銀行機令社技術屋というものは他人の苦味を許

さす、お金のシロ。左の者々と工場を築くのにやさしさを頼ま小

ちようにお説教をいただきます。

○ 杉野先生、名古屋出張部長としての辞令がおりたので、

内閣

裏面白紙

か。のりけいりか。

○ 陽村 安久 出陣時と申し傳信は世にうたつたものりか。

○ 大 細か、いとは分りません。止まらぬおつたか。

強合、いせんものか。

○ 山田 安久 書類は残つておりませんか。

○ 野村 大 筆土、廢トヤフものいすから懐を、焼いておろす

ツツ……、わたくし洞へ見えと、葉外、残つているものもあるか、電

内 閣

裏面白紙

歩を暫く歩を人か焼か小ましてね。芝程申上りも目置の前
 田家のまわり梨の焼いこようも此れおい筋つていさのいさ。書類
 の燈却といふことにはつりては非常にて……。まお洞々も見ます。焼い
 へ、舞子小唄の勸衆のいさか。

○ 陽村安貞 豊後紡績とソウのは名古屋ッ紡績今社にすか。

○ 藤五郎 三輪さんつ……。

○ 陽村安貞 神田おひこおと大きき工物を作つておりましたね。

内 閣

裏面白紙

○ 鎌倉

衛生工場として興業紡の工場を使つてのりす。

○ 脇村

一番大勢の時、工員、職員は、

○ 鎌倉

全部の二十五万のうちのりす。職員は二万五千五

百人、工員は職員徴用といふのが十万人、新機徴用といふのが

三万五千、その他五万七千、挺身隊一万五千五百。

○ 野村

十八万のうちのりす、挺身隊や学徒を八千

二千七百とソウのりす、衛多あつて隊のりすと南のりす。

内 閣

裏面白紙

不効を初得四億、大作十億のうらうらう。とらして二から
 素年トカケと整然とします。くくろの経費その他三億五
 千万の。とらして銀には今三億のつひますか、十四億損
 とかけの。とらして、中島にも割返とつひ、とらして
 三千万の。何れにも効きか多しの。つひめあきと
 五百万の。御んいし、税金その他も書にたさい
 倉庫も、一番扱が、時か、大田万、千二百、ウ原、千

内閣

日本国史書第5(1913)

43

裏面白紙

多様化した。

午後四時十分

内閣

日本国憲法第 116 条 (内閣)

46

裏面白紙

